
2025年度事業の概要

2025年8月
原子力エネルギー協議会
(ATENA: Atomic Energy Association)

I ATENAの事業推進の枠組み → 2 ~ 5

II 2025年度の重点活動項目 → 6 ~ 7

ATENAのミッションおよびビジョン

ミッション

- ATENAは、**原子力産業界全体の知見・リソースを効果的に活用**しながら、自主的に効果ある安全対策を立案し、事業者の現場への導入を促すことにより、原子力発電所の安全性をさらに高い水準に引き上げる。

ビジョン

- 原子力産業界の中で**自らがリーダーシップを発揮し、原子力の安全に関する課題に対して一歩前に踏み出して取り組む**ことで、原子力事業者の安全性向上の取り組みを促進する。

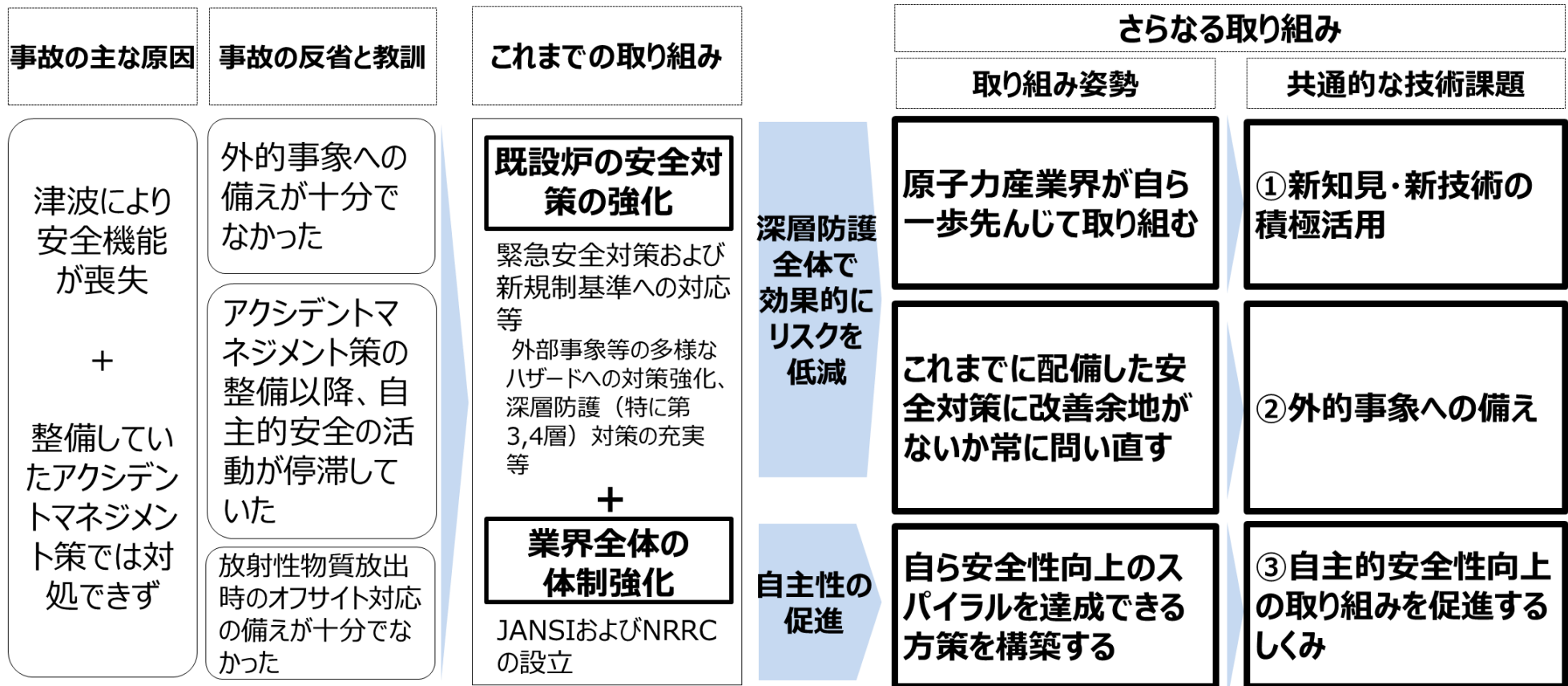
上記を達成するため以下の姿勢で取り組む。

- ◎ 原子力産業界が自ら一歩先んじて安全対策に取り組む
- ◎ これまでに配備した安全対策に改善余地がないか常に問い直す
- ◎ 自ら安全性向上のスパイラルを達成できる方策を構築する

なお、上記取り組みには、「メーカーの積極的な参加を得る」、「産業界全体がATENAの一員であるという意識で参画する」ことを図りながら実施している。

ATENAが取り組む原子力産業界の共通的な技術課題

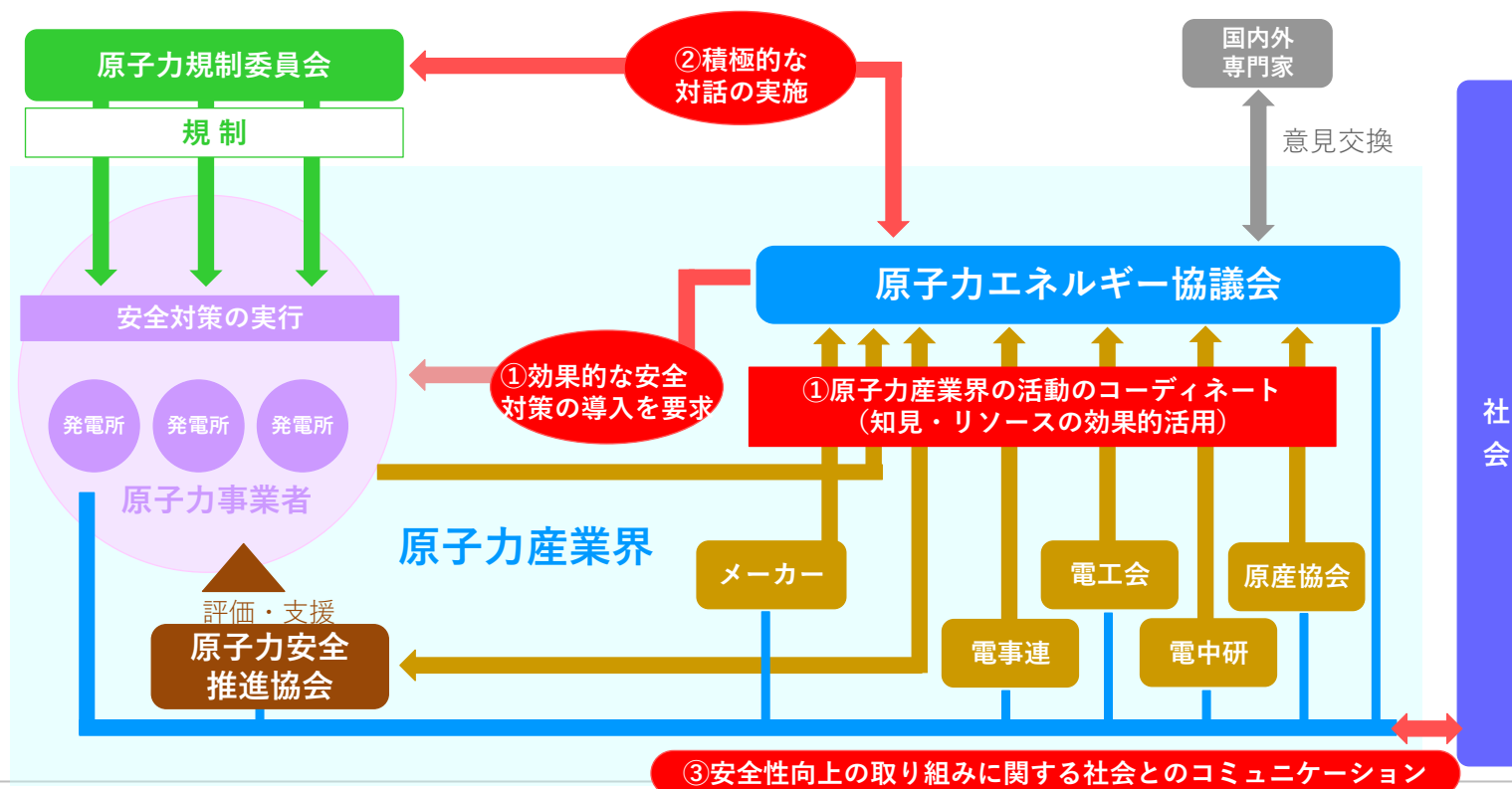
ATENAは、福島第一原子力発電所事故の反省と教訓に加え、事故後の事業者の取り組み状況を踏まえ、以下の共通的な技術課題に取り組む



【用語】 JANSI：（一社）原子力安全推進協会、NRRC：原子力リスク研究センター

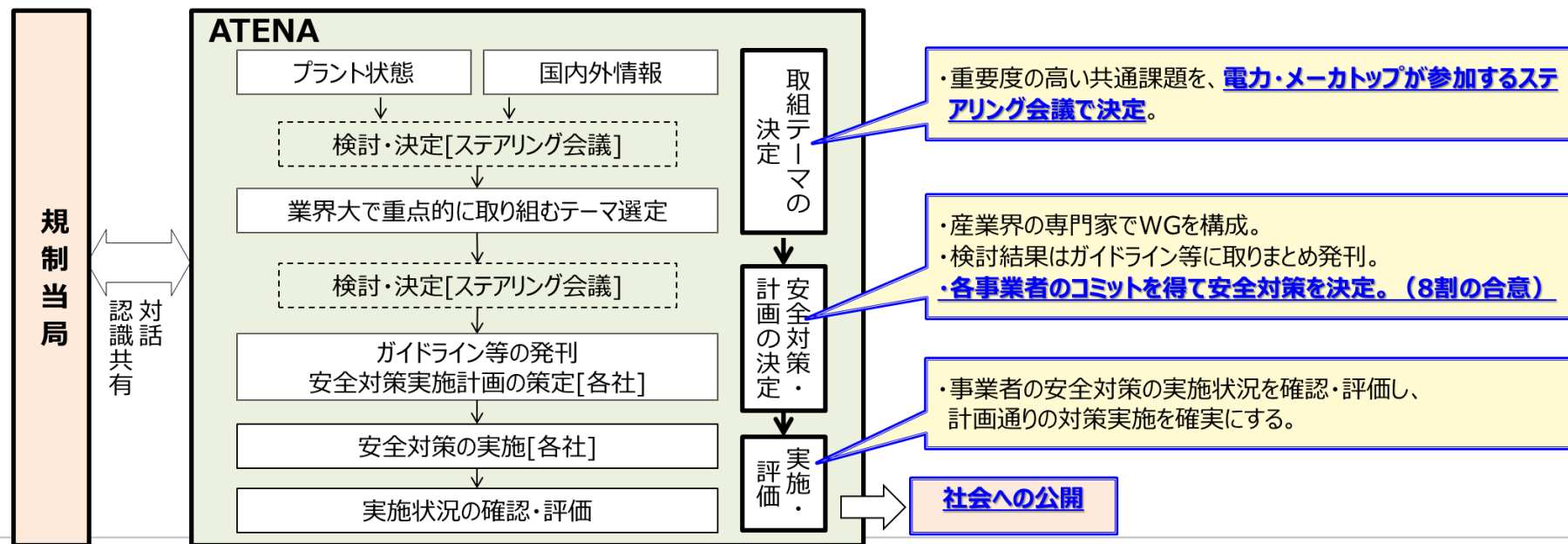
ATENAの概要：役割

- ① 電力だけでなくメーカー等の専門家も参加している強みを活かし、効果的な安全対策を立案し、事業者に安全対策の導入を要求する。なお、課題の特定・検討段階において、産業界の活動をコーディネートし、各機関の知見・リソースを活用。
- ② 安全性向上という共通の目的のもと、規制当局と積極的な対話を実施。
- ③ 様々なステークホルダーと安全性向上の取り組みに関するコミュニケーションを実施。



ATENAの活動の仕組みと特徴

- **重要度の高い共通的な技術課題**を検討の上、電力・メーカトップが、**全会一致を必要としないステアリング会議で取組テーマとして決定**する。
- ステアリング会議で決定した対策の実行は、**事業者全員がコミットする**。
- **ATENAに配置した高度の専門性を有するスタッフ**が技術検討を行い、安全性向上対策をガイドライン等に定め、個社へ展開する。技術検討においては、**産業界全体の活動をコーディネートし、リソースを効果的に活用**する。
- 共通的な規制課題は、**産業界を代表してATENAが規制当局と対話する**。
- 技術レポートをはじめとする活動成果や取組状況は**社会へ公表**する。



2025年度 ATENAの重点活動項目

➤ 中長期的な視野を持った安全性向上

- ✓ 原子力発電の持続的活用に向けた安全性向上に係る取り組み

➤ 新知見・新技術の積極的な活用

- ✓ 先手管理の意識を持った、国内外の最新情報の積極的な収集と反映

➤ 信頼される組織への進化

✓ ATENA組織力の強化

- ・自然ハザード分野への対応体制強化
- ・法人化に向けた検討

✓ 規制当局との信頼関係の構築

- ・規制当局との継続的かつ積極的な意見交換
- ・自主的安全性向上に係る実績の積み重ね

特に優先的に取り組む案件

案件

- ・リスク情報のさらなる活用（内的・外的事象PRAの高度化、RIDM推進、国内レビューアの育成等）
- ・運転中保全（オンラインメンテナンス）の導入
- ・SA設備の導入等を踏まえた保安規定の改善
- ・安全性向上評価届出の制度のあり方や運用の見直し
（安全性向上対策導入をタイムリーに実施するための機動的な許認可手続きの検討など）
- ・EAL（原子力緊急時活動レベル）の見直しへの対応
- ・規格基準類の早期エンドースに向けた産業界の取り纏めと原子力規制庁との連携
- ・PWR1次系ステンレス鋼配管粒界割れへの対応
- ・革新軽水炉の導入に向けた取り組み
- ・燃料高度化の促進（10×10燃料、事故耐性燃料(ATF)の導入に向けた対応）
- ・東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・分析から得られた知見への対応
- ・研究及び研究開発に向けた原子力規制庁との技術的な意見交換（「リスク情報活用」「経年劣化」）